

さい帯血処理新施設

ステムセル、能力2.5倍に

再生医療を目的に、さいに備えたい親の需要にさい帯血を保管する「細胞応ずる」。

バンク事業」を手掛ける新施設は医師が母子か
ステムセル研究所（東京）ら取ったさい帯とさい帯
・港）は横浜市にさい帯血を保管できるよう処理
血を処理する専用施設をを施す。さい帯は骨細胞
新設する。4億円を投じや心筋細胞の基となる間
て2021年初めの完成葉系幹細胞を含み、脊髄
を目指す。既存工場と合損傷の治療など再生医療
させた処理能力は年2万への応用研究が進む。ス
5千検体と従来の2・5テムセルは国内最大の民
倍に高まる。さい帯血に間のさい帯血バンクで、
含まれる造血幹細胞は白新施設の開設に合わせて
血病治療などに使われてさい帯バンクを立ち上げ
いる。将来の子供の病気を考える。